



三井組米穀掛假規則

1320



114
A 3598



三井組米穀掛假規則

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第一條

米穀掛事務ノ大要ハ諸國ヨリ入港ノ米穀ヲ荷主ノ望ニ
從ヒ之ヲ抵當トシテ貸附金ヲ為シ又ハ之ヲ買取或ハ
尙為替ヲ為シ時價ヲ量リテ之ヲ糶賣シ又ハ海外
ニ輸出シ且官米取扱ノ御用ヲ達シ都テ内國米穀ノ價
格ヲシテ常ニ平均ヲ得セシムルヲ要ス

第二條

此掛ハ三井組國產方ニ於テ一課ヲ設ケ該課中ヨリ特
ニ選擇シテ此掛ノ事務專任ヲ命ス可シ

第三條

此掛ニ於テ施行スヘキ米穀ノ荷為換及ヒ抵当債附ノ規則豫テ定メタルニ并銀行ノ成規ニ從フヘシ成規中掲載セサル米穀賣買ノ手續ハ下條ニ照シテ辨理スヘシ

第四條

此掛ノ資本ハ米穀ヲ蓄フル倉庫及ヒ取扱ノ場所之ニ屬スル器具等ハ三井組ヨリ支給スルハ勿論タリト虽モ米穀買入ノ代金又ハ抵当債附ノ元金ハ三井組本店ヨリ更ニ大蔵省ヘ其米穀ヲ指出シ之ヲ抵当トシテ拜借金ヲ為シ以テ資本ニ充ツヘシ其拜借金ノ數ハ概子

五拾萬圓ヲ極度トシ之ニ超ルヘナカルベシ

第五條

右大蔵御省ヨリノ拜借金ハ一ヶ月五朱則元金ニ百分ノ一ノ利息ヲ以テ毎月精算ヲ為シ翌月五日マテニ納完スヘシ

第六條

大蔵御省ヘ拜借金ノ抵当トシテ指出シタル米穀ハ該御省ヨリノ御封印ヲ受クヘキハ当然ナリト雖モ日々ノ出入繁劇ニシテ實際行ハルヘカラス故ニ日々調へ表ヲ製シテ該御省ニ進呈シ又時々該御省ヨリ倉庫ノ御検査ヲ受クヘシ

第七條

大藏御省ヨリノ拜借金ハ正米相場前ニケ月ヲ平
均シ其八分通タルヘシ尤米ノ格附ハ米穀相場會社東京
商ニ於テ豫定セル所ニ從フヘシ

第八條

此掛ニ於テ賣買スル米穀ハ必現場取引ニシテ決シテ限
月約定賣買ヲ為ス_一カラス然_トモ賣拂ノ時ニ當リ米
穀相場會社ノ手ヲ經競賣スルハ妨ナカルヘシ

第九條

御拂官米之レアルトキハ豫テ密ニ御差直段ヲ伺置

時機ヲ見合糶賣シ其代金糶賣ノ日ヨリ十日間ヲ限リ
現仕切ヲ以テ納完スヘシ其手数料ハ現價千分ノニヲ申
請ヘシ御買米之レアル時モ之ニ准スヘシ尤其機密ヲ世上
漏泄セシメサルハ勿論タリ

第十條

此掛ニ於テノ拂米ハ買入ノ望ニ依テハ切手ヲ發行ス
ル_一モアル可シ其規則ノ如キハ別段ニ之ヲ設クヘシ

第十一條

米穀ヲ海外へ輸出スル_一ハ時々前以テ大藏御省ト伺ヲ
經ヘシ尤輸出ノ手續ハ_一ニ政府ノ御法制ヲ遵奉スヘシ

第十二條

此掛ニテ拂米ノ代價ハ其時々門前ニ揭示シ又新聞紙ニ載セ勉メテ一般ノ人心ニ感觸セシムルヲ要ス

第十三條

此掛ノ會計ハ毎日表ヲ製シ一日瞭然ナラシムヘシ又毎月其終勘定ヲ為シ翌月二日ニハ之ヲ大藏御省ヘ進呈ス可シ

第十四條

米穀賣買上ヨリ生スル利益金ハ都テ三井組ニ收領スヘシ故ニ損上ヲ生スルトモ政府ハ之ニ關係ナルヘシ若

拜借ノ元金又ハ利息之完納方ニ差支ルコトアルトキハ此掛ノ會計ニ拘ラス三井組本店ヨリ辦納スヘシ

第十五條

歐米印度香港等ノ米價ハ時々間断ナク報知セシメ之ヲ御國米ノ價格ニ比較シ運賃税金雜費ヲ加算シ其損益ヲ考ヘ表面ニ製シ毎月兩度大藏御省ヘ申スヘシ

第十六條

全國米穀ノ建相場及現米ノ多寡及ヒ東京府下現米ノ景况實價等都テ米穀ニ関シ大理財ノ一部ニ

属スル條件ハ巨細時々大蔵御省へ上申スヘシ

第十七條

当掛ノ廢存ハ偏ニ大蔵御省ノ命令ニ從テ一シトモ
モ今試ミ之ヲ實驗シテ愈々便益ナルトキハ更ニ此假
規則ヲ増減改訂シテ大蔵御省ノ允許ヲ得テ以テ
永續ヲ謀ルヘシ

第十八條

大阪府下其他諸縣ニ有之官米御拂出有之トキハ此
規程ニ照準シ其地方ニ於テ取扱ヲナスヘシ

第十九條

此掛ノ役負等遵行スヘキ諸規程ハ別ニ之ヲ設ケ三井
銀行成規中ニ挿入スヘシ



三
十
九